

飯塚小3年生「山笠教室」

子どもたちから寄せられた質問に答える西流の洲上連太郎さん



模型を使って解説する東流の犬丸正嗣さん



授業は総合的な学習の一環で、児童が事前に寄せた質問に回答する形式で実施。西流と東流で使われる組織の役割や呼称などが異なるため、別々の教室で行われた。

西流の「先生」は構成9町の「紺屋町の紺笠会」代表、洲上連太郎さん(74)。昇き山が今の大きさになった経緯は「街に電線を張ったため」と解説した。長年担いできた結果、両肩にできた「こぶ」を披露すると、子どもたちから驚きの声が上がった。

もう一つの教室では、東

地域ごとに西、東流に分かれ学ぶ

飯塚山笠の男衆が、児童からの質問に答えて歴史や決まり事を教える授業が6日、飯塚市西徳前の市立飯塚小(嶋田千鶴校長、264人)であった。3年生45人の居住地に応じて西流と東流に分かれて話を聞き、各地域の山笠について理解を深めた。

香春町

伊能忠敬の足跡「踏破」ウオークイベント、子孫も参加



伊能忠敬が歩いたとされるルートを巡るウオーキング参加者

江戸時代に日本初の実測日本地図「伊能大図」を作成した測量家、伊能忠敬(1745-1818)がたどった田川の道を巡るウオーキングイベントが12日、香春町であった。イベントは田川郷土研究会が2016年に始めた。13回目となる今回の「探銅所編」で、伊能が残した足跡を10年かけて踏破したことになる。

同会によると、伊能が田川を測量で訪れたのは18

12年と翌年13年の2回。同会の会員が伊能が測量のために通ったとされるルートを実際に歩き、調査。地元住民から聞き取った情報も照らし合わせ、精度を高めて紹介してきた。

最後となる「探銅所編」には50人が集まった。距離は6・5キロ。宿場町だったという地区やゆかりのある史跡を同会会員の解説を聞きながら巡った。伊能の7代目の子孫に当たる福智町

8月には党所属の県議2人も離党の意向を表明して

日本維新の会に所属する県内の4人の市町議が、党県総支部(福岡維新の会)に離党届を提出していたことが分かった。いずれも10日付で、今後は無所属で活動するという。

4人は、福岡市の阿部秀樹市議(30)▽福津市の大山隆之市議(35)▽粕屋町の牟田口直輝町議(36)▽志免町の牟田口武史町議(65)。いずれも9月に離党届を提出し、その後除名処分となった阿部弘樹衆院議員(63)(比例九州)と関係が深い。党本部が掲げる「副首都構想」に考えの相違が生じたことなどが離党を決めた要因だという。

維新4市町議 離党届を提出

党県総支部に

流若頭相談役の犬丸正嗣さん(55)が担当。各流でどうして競っているのか」という質問には「タイムを測ることで勝ちたいという気持ちになる。競争しないと楽しくない」と説明。時折、山笠の模型を交えなが

ら、熱を込めて話した。幼い頃から子ども山笠に参加しているという新藤藍之介さん(9)は「山笠の大きさが、なぜ始まったのか」が分かった」と表情を引き締めていた。

(中原岳)

の奥永渚さん(44)は3歳の長女、桃歌ちゃんと参加。「偉大な先祖さまもこの道を通ったのかと思うととても感慨深いです」としみじみと話した。

踏破した道は、郷土資料を電子化した田川市立図書館の「筑豊・田川デジタルアーカイブ」で紹介する予定。中野直毅会長(71)は「歴史を知らないといけない道もある。伊能の通った道

Q 寝たきりの方にできやすい褥瘡(床ずれ)はどんなケアが大切ですか？

A 褥瘡とは、長時間同じ体勢でいると、骨とベッドで圧迫された皮膚などの血の巡りが悪くなり、皮膚が傷ついてしまう状態のことです。できやすいのは腰や背中、かかとなどです。一度できるとなかなか治らないし、そこからばい菌が入って体中に回ると、致命傷になる危険性もあります。

予防は同じ体勢をとらない。これだけです。ただし認知症や高齢、まひなどで、自

褥瘡(床ずれ)

社会保険田川病院 形成外科部長

森 成一郎氏



きりを防ぎます。傷が治るのを遅らせる糖尿病や栄養失調は薬や食事療法などでコントロールします。

局所的には先ほど述べた、同じ体勢にしない(除圧)▽体を動かすときも引きずらない(摩擦予防)▽傷を清潔に保つ(排液、あか、尿からの

同じ体勢避け、予防を

ヘルパーさんの手を借りたりしてください。

とろろがどんなに手厚い介護をしても、全身状態によっては褥瘡はできてしまいます。そのときの治療法ですが、まずは外科系の病院を受診し、合は壊死を切除する必要があります。その後も潰瘍の奥を微温湯(生理食塩水や蒸留水

また壊死の周りの赤みが強くなっている場合は、うみがたまっていたり(蓄膿)、表に出ている壊死が奥にあっていたりすることがあります。その場合は壊死を切除する必要があります。その後も潰瘍の奥を微温湯(生理食塩水や蒸留水

いろいろな意見はあると思いますが、家人だけでオムツ交換や体位変換、入浴、食事介助などの精神的、身体的負担を考えると、褥瘡も老化現象の一つと考えて、拡大や高熱、痛がっているなければ共存でもよいと思わないと家人は倒れてしまいます。一人で抱え込まずに、地域の福祉や病院の医療相談の力を借りてください。

分で動けない状態の方は他の人に手伝ってもらわなくてはなりません。予防がとても大事なのです。

また、体圧を分散させたり体位を変換したりするマットなど介護用品を活用しましょう。家人だけでの対応が難しい場合は自治体に相談したり、訪問看護や訪問診療、ホーム

訪問看護や訪問診療、ホーム

剥離)くらいなら、前記の予防法と被覆材で治ることもあります。皮膚の深いところ、あるいは皮膚を越えて血液が循環しなくなると、壊死という組織が悪く言えば死んでしまいます。灰色や黒色に変化し

でなくても良いです)で洗浄し、吸水パッドなどで排液を吸収させます。そして、徐々に縮小していくのを待ちます。皮膚移植や筋肉移植などの手術で褥瘡がふさがることがありますが、寝たきりという根本原因が続く限り、ほぼ再発します。

あなたの「カルテ」

(461)

筑豊

chikuho@nishinippon-np.jp

筑豊総局

0948(22)3500
FAX 0948(22)3503

〒820-0004
飯塚市新立岩12-9

直方支局
0949(26)1361
FAX(26)2969

〒822-0001
直方市感田1478-6

コテージ向日葵A号
室

田川支局
0947(42)2205
FAX(45)2207

〒825-0011
田川市栄町2-2

購読、配達のご用は

飯塚西 29-5087
飯塚菰田 25-2473

飯塚市徳前 22-1757
新飯塚 23-0707

二瀬 25-2473
小竹 22-1529

庄内 82-1399
天道 23-5076

飯塚筑穂 42-6844
嘉麻市山田 53-2059

稲築 42-6844
碓井 52-6161

大隈 57-0112